

会議結果報告

1 会議の名称

令和6年度第1回光市環境審議会

2 開催日時

令和6年4月25日（木）15時30分～16時50分

3 開催場所

市役所本庁3階 大会議室1号

4 出席人数

委員10人（4人欠席）、事務局7人

5 公開・一部非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長あいさつ

地球温暖化の影響が暑くなってきたが、お集まりいただきありがたく思っている。
本日も忌憚のない意見をよろしく願いたい。

（3）議事

ア 令和6年度環境関連施策について

環境政策課職員により配布資料に沿って説明

【質疑・意見等】

（委員）

新市誕生20周年記念事業「光の海の体験プロジェクト」について、光市が合併して20年経過するということか。現時点の内容は決まっているか。

（事務局）

平成16年10月に旧光市、旧大和町が合併して今年が20年ということで、市を挙げて様々な事業に取り組んでおり、その一つとして実施するものである。

内容は固まりつつあるが、実施時期は子どもを対象にした事業のため、夏休み中の開催を考えている。

（委員）

夏休みは大変高温のため、夏休み期間からずらして別の土日に実施することを考えるべきだと思う。子どもは力がないため、人数もたくさん必要になるし、小さい

網でも良いかもしれない。実施日や開催手法について、漁協とよく打ち合わせをお願いしたい。

(事務局)

本事業は農林水産課と共同で実施するもので、本日の意見を農林水産課に伝え、しっかりと対応していきたい。

(委員)

エコスタイルセミナーの子どもを対象にした工作教室は、地球温暖化とどう結びつくのか。

(事務局)

パナソニックワークス社の方を講師に、木工関係の工作教室を予定しており、保護者と一緒に作りながら温暖化を学ぶことを考えている。

(委員)

電気自動車の取組であるが、ヨーロッパでは電気自動車に関する取組を延期しているが、国が推進しているから市も推進しているのか、市が独自に推進しているのか。

また、電気自動車以外にも、プロパンやハイブリット、水素自動車があるが、電気自動車だけを推進しているのか

(事務局)

国において電気自動車の普及を推進しているため、それに基づき本市においても環境基本計画に位置付け推進している。また、本市では水素を取り扱っているところがなく、電気自動車の普及促進に取り組んでいるところである。

(委員)

電気を作ることに相当のお金がかかっており、それから電気をもらって走る電気自動車は安くはない。バッテリーを市に備えて太陽光発電をしている人から安く電気を購入すればいいのではないか。または、大手の会社がアンモニアを作り燃やせば安くつくと思う。

(委員)

家庭用生ごみ処理機等購入費補助金について、コストに応じたパフォーマンスがあるか、個人に対する補助金より、市が回収する家庭用生ごみを肥料化の方が効率的ではないか。

(委員)

例えばコンポストからできた堆肥を30円で売ることになれば、ごみ減量につながるのではないか。

(事務局)

本補助金は年間一定数の利用があり、堆肥化する以外に、生ごみの重量の大半を占める水分を飛ばすごみの減量化の効果もある。水分を多く含むごみを焼却施設で燃やすと熱効率も下がり環境への負荷が大きくなる。

(委員)

水分を飛ばすことが環境に良いのであれば、それをもっと周知すべきである。

(委員)

公用施設等LED化推進事業だが、LED化により二酸化炭素排出量の削減量と、それは一般家庭何世帯分に相当するのか。削減について、市民への発信方法を検討すべきである。

(事務局)

二酸化炭素排出量の削減については、業者の試算によると60%削減が見込まれ、年間130世帯分の削減になると試算している。

(委員)

様々な補助金があるが、交付後に報告書は提出されているか。補助金を交付されたら終わりではなく、その結果が次に交付を受ける人の参考として掲示されているのか。

(事務局)

環境政策課の補助金については、報告書の提出は求めているが、省エネキャンペーンに出来るだけ参加いただき、各家庭の二酸化炭素排出量の削減を図ってもらうなどの取組をしている。

補助金事業を実施することで、脱炭素に取り組むきっかけづくりになり、ライフスタイルの転換に役立っていると考えている。なお、環境審議会においては、補助金交付実績を報告している。

イ 「山口県の大気・水環境等について」

山口県周南健康福祉センター（周南環境保健所）職員により配布資料に沿って説明

(4) その他

(事務局)

次回会議は11月頃を予定

(5) 閉会